

5 徳島県立文学書道館 事業実績

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図った。

(1) 顕彰、表彰事業【経費 1,123千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	第12回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。今年度は、小説32人、脚本1人、文芸評論9人、児童文学19人、随筆65人、現代詩194人、短歌346人、俳句511人、川柳182人、連句32人の計1,391人から2,370点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、紹介した。</p> <p>表彰式:平成27年2月11日 応募者数:1,391名 応募作品数:2,370点 会場:ギャラリー</p>	1,122,770	-
	小計		1,122,770	0

(2) 年鑑編集・刊行事業【経費 1,311千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	ことのは文庫 「寂聴文学データブックⅡ」	<p>寂聴の文章が掲載された作品集や、前書き、後書き、帯などを書いた本、脚本、文庫本のデータを収録した第2弾のデータブックを発行した。</p> <p>A5版サイズ 1,000部 販売価格:700円</p>	663,002	-
2	ことのは文庫 木本正次「黒潮の碑文」	<p>当館展示作家である木本正次が、生まれ育った牟岐をモデルに書いた「黒潮の碑文」を文庫化し、顕彰した。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部 販売価格:650円</p>	648,000	-
	小計		1,311,002	0

(3) 教育普及育成事業【経費 1,801千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学講座 古典を楽しむ 「和泉式部日記」を読む	<p>恋多き、天性の歌人と呼ばれる和泉式部。「和泉式部日記」は受領の娘でありながら、身分差を乗り越え、紆余曲折を経て敦道親王との共棲に至る10ヶ月の内的記録といわれている。世羅先生は、系図や周囲の人々の状況をからめて、原文や和歌を朗読しつつ、丁寧に読み進めていった。</p> <p>日時:平成26年4月～平成26年9月 (全5回・各土曜) 受講者数:243名 受講料:無料 会場:講座室</p>	105,000	-

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
2	文学講座 芸術・文化を語る	徳島ゆかりの芸術家、研究者、文化人に専門分野のお話をしていただき、平和で心豊かな社会の創造について共に考える講座。徳島大学准教授の田口太郎氏と笹尾佳代氏、作家の野口卓氏、当館館長の富永正志氏を迎えた計4回の講座はいずれも充実したものとなった。 日時:平成26年5月～11月(全4回・各土曜) 受講者数:112名 受講料:無料 会場:講座室	176,000	—
3	文学講座 言の葉テーマ朗読会	展覧会に即したテーマと、8月の「反戦」、計4回朗読会をおこなった。 日時:平成26年5月～平成27年1月 (全4回・各日曜) 受講者数:173名 受講料:無料 会場:講座室	—	—
4	文学講座 知的書評合戦 ビブリオバトルin 徳島	社会人対大学生という形で開催した。社会人と大学生それぞれ4名がエントリーし、社会人と大学生が部屋を分けて予選を開催。各部屋での上位2名が勝ち上がり、決勝戦を行った。決勝では、4人それぞれが個性的で素晴らしい発表をしたが、『忘れられた日本人(宮本常一著)]を紹介した大学生、星野凜さんが39票中の24票を獲得して優勝した。 日時:平成26年8月24日(日) 参加者数:45名 参加料:無料 会場:講座室	—	—
5	文学講座 学生のための夏休み文芸広場	中学生1名、高校生5名、大学生3名が参加。はじめに、司会の佐々木義登氏が、講師のふたりに小説を書く時に気を付けていることなどを質問。トーク形式で進められ、受講生も笑いながら作家の話に聞き入っていた。後半は言葉と遊ぶワークショップ。言葉の組み合わせを変えることで、本来の言葉の意味とは違う「異化」という手法を学んだ。 日時:平成26年7月26日(土) 受講者数:9名 受講料:無料 会場:講座室	235,382	—

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
6	文学講座 書くことを楽しもう	これまでの人生を振り返り、自分のオリジナルな「自分史」を書く実習講座。はじめての方にもわかりやすく、ワークシートを使用しながら「自分史」づくりの基礎知識から仕上げまで、段階を追って学んだ。最終回は仕上げた原稿に手作りの表紙をつけて製本し、当館図書室で一週間の展示を行った。 日時:平成26年8月～12月(全5回・各土曜) 受講者数:52名 受講料:無料 会場:講座室	50,000	—
7	文学講座 徳島の文学を楽しむIX	近松門左衛門の名作「傾城阿波の鳴門」、松本清張や今東光が小説に書いた徳島藩お抱えの能役者で浮世絵師の東洲斎写楽。吉川英治「鳴門秘帖」など徳島ゆかりの時代小説、そして古事記や万葉集に登場する阿波。古い歴史がある徳島が書かれた古典や近世の作品、また時代小説に描かれた阿波を紹介した。 日時:平成26年9月～12月(全4回・各水曜) 受講者数:42名 受講料:無料 会場:講座室	47,280	—
8	文学講座 製本を楽しむ	基礎編では、先生が作ったセットで、全員同じものを作った。応用編では、受講生が製本したい材料を持ち寄り、それぞれに計測、裁断して、製本した。詩集、朗読原稿、自分史、娘の卒業論文、古文書のコピー、愛読して表紙がとれなかった小説、子供の中学時代の日記など。苦心して仕上げ、喜んでいた。 日時:平成26年10月～12月 (全3回・各土曜) 受講者数:26名 受講料:無料 会場:講座室	38,520	—
9	第13回言の葉朗読会	公募した12組16名の出演者がそれぞれに選んだ文学作品を朗読した。歴史的なもの、現代の小説、随筆と幅広く、日頃の練習の成果を発揮してくださった。台本作りから朗読練習まで、時間をかけたことがよくわかり、心に届くものがあった。 日時:平成26年9月27日(土) 受講者数:45名 受講料:無料 会場:ギャラリー	—	—

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
10	秋の文学講演会・I 「日本語への旅～古代と現代の越境文学～」	外国人として初めての日本文学作家リービ英雄氏の講演会。初めに越境文学の研究者である四国大学の阿部曜子教授にリービ氏の紹介をしていただいた。その後、リービ氏より日本文学の作家にどうしてなったか、またどんなことを考えているかを話していただいた。英訳した「万葉集」の話は、好きな想いが強く伝わってきた。来場者も熱心に聞き、質問にも答えていただいた。 日時:平成26年11月22日(土曜) 受講者数:140名 受講料:無料 会場:ギャラリー	455,526	—
11	秋の文学講演会・II 「村上春樹と四国」	共同通信編集委員の小山鉄郎氏が講演。代表作「ノルウェイの森」のテーマである「死は生の対極としてではなく、その一部として存在している」について解説し、数字の4にこだわっていること、四国は村上文学の聖地であることなどを話された。また、古今東西の神話を下敷きにしているため、世界中で村上作品が読まれていることなどを話された。 日時:平成26年11月29日(土曜) 受講者数:97名 受講料:無料 会場:ギャラリー	201,764	—
12	書道講座 親子で学ぶ美文字 —硬筆—	講師は小学校教員を長年され、書写書道教育に尽力された森岡清流氏。「上達には楽しむことが大事」との考えで、はじめに手本なしでいくつかの言葉を書いた。また鉛筆の持ち方や書く姿勢、クイズ形式での漢字の筆順、葉書や封筒の住所・宛名の書き方を学んだ。その後、講師手作りのテキスト「字形の整え方の基本」によって、美しく書くためのコツを一つひとつ学んだ。最後に、保護者へのアドバイスとして「褒めることが大切」とのことばがあった。 日時:平成26年6月～7月(全3回・各日曜) 受講者数:51名 受講料:無料 会場:実習室	49,900	—
13	書道講演 「奥深い墨の世界 ～墨のひみつ～」	長年にわたり墨の研究や商品開発に携わってこられた(株)墨運堂相談役の松井重憲氏による講演。墨の原料である膠(にかわ)についての話を中心に、煤(すす)を採取する方法、墨の色は煤の違いによること、墨の使い方などを話していただいた。最後に聴講者からの質問に答えていただいた。 日時:平成26年7月20日(日曜) 受講者数:61名 受講料:無料 会場:実習室	69,700	—

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
14	書道実習 「無限の彩り ～墨のふしぎ～」	<p>講師は(株)呉竹営業部の川崎氏・綿谷氏。墨を使って4種類の実習を行った。墨の性質を生かした「浮き出し・重なり」(水をつけた筆で紙に文字を書き、その上に淡墨を刷毛で塗り文字を浮き出させる)「にじみ・ぼかし」(紙に筆で墨を落とし、スポイトで水をゆっくり滲ませていく)「いろいろな色で書く」(布に書けるカラフルな墨を使用)や、普段は工場でしかできない「にぎり墨」(練った柔らかい状態の墨を、手で握って成形する)の体験もあり、受講者からは「来てよかった」との声が多かった。</p> <p>日時:平成26年7月25日(金曜) 受講者数:20名 受講料:無料 会場:実習室</p>	59,700	—
15	書道講座 小さい印を作ろう	<p>今回の篆刻講座は、12ミリ角の小印材に名前の一文字を刻した。講師より手順の説明の後、各自で作業を進めていった。これまでになかった小さい印なので難しかったが、講師の丁寧な指導によって、みなさん見事な印が仕上がった。</p> <p>日時:平成26年9月5・12日(全2回・各日曜) 受講者数:24名 受講料:無料 材料費実費 会場:実習室</p>	39,600	—
16	「とくしま文化推進期間」実施事業 渡部 清が語る書	<p>「新日本紀行」や「シルクロード」の題字で知られる渡部氏。氏は題字に限らずタイトルのイラストやレタリングも手がけられた。NHKニュースで流れるテロップは5～7ミリ角の小さいものであったとのこと。さらに速報ゆえに一度きりで仕上げられたという。また小・中学校書写の教科書も50年来執筆されており、教師はもっと指導力をつけるべきであること、また現代書は作品と日常書との別があるが、書は本来区別をすべきでないと話された。</p> <p>日時:平成26年11月3日(月曜・祝) 受講者数:52名 受講料:無料 会場:講座室</p>	175,609	—
17	書道講座 書き初め 大字に挑戦!	<p>小学生を対象に、伝統文化である「書き初め」を行った。特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm、穂の直径4cm)を使って68cm×70cmの紙に大字を書いた。はじめに書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明し、各自が書きたい漢字一字を制作した。1年生から6年生までの参加があり、筆を初めて持つ参加者もいたが、迫力のある大字作品に仕上がった。作品は、1月中2階フロアに展示し来館者に披露した。</p> <p>日時:平成27年1月10日(土) 受講者数:30名 受講料:無料 会場:講座室・実習室</p>	51,855	—

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
18	書道講座 漢字の書法を学ぶ 隷書	初めに書体の特徴や成立順等についての話。続いて篆書と隷書の共通点と相違点について説明があった。その後「王」「王王」「二三」「工士」「口日」「田目」「三日」「正曲」の練習に取り組んだ。2回目は前時の復習のあと「波磔」について説明があり、本講座のまとめとして「先聖」「至孝」「文学」のいずれかを清書した。作品は当館2階に展示した。 日時:平成27年3月15・29日(全2回・各日曜) 受講者数:30名 受講料:無料 会場:実習室	45,000	—
	小計		1,800,836	0

(4) 展示事業【経費 18,675千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和ませる日本庭園を設置している。年4回の展示替えを行った。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	—	常設展観覧料 に含む
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室内では、年2回の小テーマ展を開催した。 期間:通年 会場:文学常設展示室	—	常設展観覧料 に含む
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して展示している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する展示をした。 期間:通年 会場:収蔵展示室	—	常設展観覧料 に含む
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの書家を中心とした豊かな書の世界が広がる空間。本県出身の書家・小坂奇石の息づかいが感じられる書斎も再現している。年3回の展示替えをし、収蔵している豊富な作品等を広く紹介した。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	—	常設展観覧料 に含む

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
5	文学特別展 寂聴 奇縁まんだら展 (特別展示事業)	瀬戸内寂聴が「日本経済新聞」に2007年～2011年、交友のあった作家や芸術家、政治家など、物故者との思い出を連載した「奇縁まんだら」。毎回、横尾忠則が描いた肖像画が添えられ、人気を博し、単行本は4巻に及んだ。本展では、その肖像画の原画と、寂聴の文章、描かれた人物の直筆や愛用品を展示、紹介した。寂聴との意外な関係や、知られざるエピソードにより両者を深く知るとともに、横尾の原画を鑑賞する貴重な機会とした。 会期:平成26年4月26日～6月8日 39日間 入場者数:1,042名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー	1,292,002	329,360
6	書道特別展 西谷卯木展－鬼才が放つかなの美－ (特別展示事業)	西谷卯木(明治37年～昭和53年)は、戦後のかな作家として高い評価を受け、伝統に立脚した現代のかなを追求し、驚くほど多彩な作品を発表した人であった。本展では、作品37点のほか「卯木のことば」として、書に対する考えを述べた文を展示するとともに、冊子にして観覧者に配付した。 会期:平成26年6月20日～8月3日 39日間 入場者数:1,581名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	2,694,378	287,900
7	文学特別展 北條民雄－いのちを見つめた作家－展 (特別展示事業)	阿南市出身の作家、北條民雄(大正3～昭和12年)は、ハンセン病を患いながらも文学を志し、川端康成に才能を見い出されて名作「いのちの初夜」など数篇の作品を残した。直筆の原稿や川端康成との往復書簡、ハンセン病関連資料などを展示して北條の作品と生涯を紹介した。 会期:平成26年8月7日～9月23日 40日間 入場者数:649名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	3,670,004	199,340
8	書道特別展 小坂奇石と川村驥山－「線の行者・奇石」と「酒仙・驥山」の書－ (特別展示事業)	書の本質を線に求めた小坂奇石と、酒をこよなく愛し、酔余の狂草作品が世に知られる川村驥山の展覧会を開催した。奇石は、漢籍や漢詩に造詣が深く、書家として初めて日本芸術院賞を受賞した驥山を尊敬しており、二人は親交があった。当館所蔵の小坂奇石作品28点と、長野市にある驥山館のほか長野県内に所蔵されている川村驥山の作品及び関連資料32点を展覧し、異彩を放つ巨匠二人の書を紹介した。 会期:平成26年10月4日～11月12日 34日間 入場者数:557名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー 書道美術常設展示室	3,178,291	135,665

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
9	文学特別展 万葉集 ～いにしえの心をたずねて～ (特別展示事業)	日本人の心の源郷をたずね、万葉の名歌とそれをこよなく愛した文人たちの文章、万葉歌をモチーフとした日本画を通して万葉集の世界を紹介。ギャラリーでは大伴家持をめぐる女性たちの恋歌を造形展示し、千三百年の時空を超えて、歌に込められた万葉びとの息吹を体感できる空間を演出した。また三階収蔵展示室では、万葉学者・犬養孝の万葉歌碑のコーナーを特設し、県内にある二つの歌碑も紹介した。 会期:平成26年12月20日～ 平成27年2月8日 37日間 入場者数:708名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー	3,268,620	194,170
10	書道特別展 中林梧竹「癒しのかすれ」展 (特別展示事業)	中林梧竹の作品に見られる「かすれ」をテーマとした。「かすれ」は、筆や紙の材質、墨の濃さ、筆速、筆圧、さらには技量によってさまざまな表情を持ち、作風を大きく左右する。梧竹は、独自の書道観と卓越した技術、そして表現力によって「かすれの効果」を作品に巧みに生かした。作品31点を展示し、清らかで、柔らかく、温かい梧竹の「かすれ」の魅力を紹介した。 会期:平成27年2月15日～3月22日 31日間 入場者数:408名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー	1,383,204	95,650
11	文学企画展 収蔵品展 貴司山治の時代小説展 —徳島ゆかり作品を中心に— (企画展示事業)	鳴門市高島に生まれた貴司山治は、青年期に故郷・高島の塩田争議に加わり社会主義的視点を培われ、後に「プロレタリア大衆小説」の作家として活躍する。しかし軍国主義による厳しい弾圧を受けて転向を余儀なくされ、活路を求めて生み出されていったのが、自由に物語を展開できる時代小説だった。本展は徳島ゆかりの作品を中心に、挿絵原画や直筆原稿、新聞切り抜きや掲載雑誌などを展示し、貴司山治の時代小説の魅力を紹介した。 会期:平成26年6月18日～8月23日 57日間 入場者数:1,960名 観覧料:100円～300円 会場:文学常設展示室	95,327	常設展観覧料を含む
12	書道企画展 墨にこだわった作品展 (企画展示事業)	墨の視点から書を鑑賞し、多彩な墨色の美しさや、墨による表現の幅広さを知ってもらう企画展。徳島県内で活躍する22名の作品を展示するとともに、揮毫に使われた墨やその色見本、書者による「作品のみどころ・工夫、苦心した点」を紹介した。 会期:平成26年6月20日～8月3日 39日間 入場者数:1,768名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	1,244,933	—

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
13	書道企画展 徳島県高校生 第4回 書道席書創作コンクール展 (企画展示事業)	4回目を迎えた当コンクールは、県内11校より492点(漢字180点、漢字仮名交じり165点、仮名147点)の応募があった。その中から各部門15点(15名)を選出し、11月16日(日)に本選を実施。11月23日(日)に本選審査が行われ、各部門の受賞者を決めた。作品は、12月6日(土)から12月14日(日)まで当館ギャラリーにて展示し、表彰式は12月14日午後2時より行った。 会期:平成26年12月6日～14日 8日間 入場者数:436名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	655,706	—
14	書道企画展 「今年の一文字」展2014 (企画展示事業)	年末の恒例行事となった「今年の一文字」展。気軽に「書」に親しんでもらう機会として開催している。2014年を振り返って、世相を象徴する漢字、あるいは個人的に印象に残ったことなどを漢字一字にして、ハガキに毛筆で書いた作品を募集した。昨年を158点上回る677点(314字)の応募があり、すべての作品を漢字を選んだ理由とともに1階ロビーに展示した。一番多かったのは「新」で、その理由に「新しい生活を始めたから」「新しいことに色々挑戦できたから」等があった。昨年と同様、明るい意味の漢字が多数寄せられ、前向きな気持ちがうかがえた。 会期:平成26年12月14日～27日 12日間 入場者数:277名 観覧料:無料 会場:1階ロビー	11,370	—
15	文学企画展 収蔵品展 海野十三の探偵小説 名探偵 帆村荘六の世界 (企画展示事業)	当館の常設展示作家、海野十三の探偵小説に登場する科学探偵、帆村荘六の作品を紹介。挿絵と文章の抜き出しのパネルとともに、掲載誌や収録本を展示した。また、登場作品リストを無料配布し、作品はすべて1階図書室で閲覧できるようにした。 会期:平成27年1月20日～3月29日 60日間 入場者数:894名 観覧料:100円～300円 会場:文学常設展示室	—	常設展観覧料を含む
16	書道企画展 回顧・とくしまの書ー戦後徳島を舞台に活動した書人たちー (企画展示事業)	戦後の徳島県の書壇を回顧する展覧会。戦後、徳島県において書の振興と教育、作品制作に情熱をもって取り組んだ書人29人を紹介した。会期を2期に分け、Ⅰ期は14人、Ⅱ期は15人とした。各人の経歴をパネル紹介するとともに、作品2点(一部は1点)を展示。また図録を発行し観覧者には無料で配付した。 会期:Ⅰ期ー平成27年2月15日～3月1日 Ⅱ期ー平成27年3月3日～22日 60日間 入場者数:1,152名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	1,180,904	常設展観覧料を含む
	小計		18,674,739	1,242,085
	合計		22,909,347	1,242,085